

# 高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

## 世に出来る“塚様”

お墓と私(下)

今久保 約雄



### お墓の変遷について

無縁の碑

拓本執るや  
茅の葉に

顔を撫づらる  
年暮の八つ刻

碑が建っている。

わたしが見た郷士三代目の墓

は、上部は山の容をして、本御

影特有の淡紅色だったが、石が

硬いせいなのか彫が浅く、拓本

にしても読めなかつた。この式

の墓碑は元禄期のもので、庶民

の建て始めもこの時期にあるら

しい。それ以前の年号は見当た

らないし、もしあれば子孫が後

年に、過去帳より造つたものと

推測する。その例として、才谷

屋三代目の直益があげられる。

享保、元文期になれば、なぜ

か山の型式

はなくなり、笠の付いた

墓碑となる。

遠くから見ても、この

笠は立派ゆえに目立ち、

この山間に

も郷士がいた、とすぐ

分る。家老

級の墓碑は

花崗岩だが、

これらは全て砂岩である。

### 庶民は川石から

お墓には、その家の興りによつて、形式がある。初代の墓は、庶民の場合は川石を置いた墓が多数で、二代目もまた同じだつた。もちろん年代、被葬者は分らない。三代目にやつと墓

宝暦期になると、上部の四隅が

反り上がり、先は尖つて、そ

る。

の部分が少しだけ削り取られている（笠付きの四隅も、尖つている部分が削り取られている）。これは、勝負に賭ける人の仕業らしく、必勝のお守りとする。そうな…。寛政、文化期になると、上部は方形。この墓碑は正方形で重量感があり、郷士の格がよく出ている。土佐藩では上士、下士とは身分の差別が顕著だつたと聞くが、お墓の世界はそうでない。むしろ下士の方が立派だった。

江戸中期に、南学の中興の祖として天文曆学の大家の谷秦山の教えは「墓は質素でいい。できれば川石で建てよ」と。これが谷家の家訓でもあり、以後は明治中期まで川石の墓だが、この教えは十里東とさひがまへも伝わつていただのか、郷士の野老山家は、享保期から幕末までの二十基を川石で建てている。青い苔が付き、とても見応えのある墓石群となつていて。

おおかたの人は、お墓の件について余り話をしない。また、しても相槌もない。そして淋しい、気持悪い、恐いと続く。しかし現世にいる限り、いつかは深い眠りに付く。そして他人は、淋しい、気持悪い、恐いと屹度いうだろう。そういう人たちを少しでもなくしたいと思うのはわたしばかりでないだろう。高知市丹中山にある歴史的墓地公園の坂本家墓所のような雰囲気で、お墓と向き合い、向き合える、そういう文化を作り、広めたいものである。

往昔の

武威や榮えは

墓碑に出づ

維新の波か  
無縁の多し



なくなつた蔵福寺跡に残されていた五輪塔を20年以上前に基盤整備して整列させている。

南国市蔵福寺で

### お墓文化育てよう

# “話題人”インタビュー

オペラ歌手

# 示野由佳さん

テノール

# ディーター・パッシングさん

## 『お龍と龍馬・愛の讃歌』 ウィーンの歌声が高知に響く



示野 「お龍と龍馬」は、愛の物語であるだけでなく、平和への深い思いの上に書かれた作品だと思いま



同賞は平和貢献する人々に与えられるもので、ノーベル平和賞受賞者・ボーランドの元大統領ワレサ氏をはじめ、世界中の平和貢献者に贈られている。日本人では3人目。歴史上の人物に与えられることは珍しい。

### 龍馬の平和魂か

——昨年末、平和団体「平和の炎」の総会バー・ティーのとき、示野さんたちは『お龍と龍馬・愛の讃歌』のことなどを紹介くださったのです。ありがとうございます。

思いがけない『平和の炎賞』授与決定でしたが、私たちは龍馬がウィーンで認められたということを、大変喜んでいます。

5月15日、ウィーンの授賞式でも『お龍と龍馬』が披露されるそうですね。

示野 「お龍と龍馬」は、愛の物語であるだけでなく、平和への深い思いの上に書かれた作品だと思いま



最高の声出すために

示野 リサイタル前の日々、私は筆談や二人だけの合図で会話をします。ステージで最高の声を出す神経の配り方はすごいですね。不思議なくらいでしたが、見事な声量に接し、理解することができます。

示野 リサイタル前日の私は、舞台上で活動を仕掛けた。私はそこに入ってきたとき、歌にも抵抗がありませんでした。本当にいい曲だと思います。

示野 リサイタルのような人で、チロル独立戦争の英雄ですが、『守りの人』。それと違って、龍馬はアクトタイプで、活動を仕掛けた。私はそこに入ってきたとき、歌にも抵抗がありませんでした。本当にいい曲だと思います。



示野さんは故郷高知への思いもありでは。

『示野由佳&ディーター・パッシング オペラリサイタル』

4月13日(日)14時開演(13時半開場)  
高知県立県民文化ホールオレンジホール  
一般前売り1,000円(当日1,500円)  
小学生以下無料

第1部:オペラリサイタル  
第2部:『お龍と龍馬・愛の讃歌』

そんな私たちの前に生き生きとしたお龍と龍馬が現れた。オレンジホールに一人の歌声が響いた瞬間、龍馬たちが蘇つた。

二組の恋人たち。幕末とウィーンから吹いてくる風。一人でも多くの方に聴いて、見て、感じていただきたい。

今年初め、朗報が飛び込んだ。「お龍と龍馬」を通じて、ウィーンの王室・ハプスブルク家主宰の平和団体「平和の炎」から、県立坂本龍馬記念館、つまり坂本龍馬に『平和の炎賞』を授与するというニュースである。示野さんたちにも同時授与される。

龍馬を大変誇りに思っています。

お父さんの死。ウィーンと高知の時差。オペラの台本と『お龍と龍馬』との表現のタイミング。夢の中まで曲づくり結びつけた気がします。

龍馬もまた、世界の平和を夢見た。龍馬の魂が、オーストリアと日本を結びつけた気がします。

示野さんの公演を心待ちされていたお父さんの死。ウィーンと高知の時差。オペラの台本と『お龍と龍馬』との表現のタイミング。夢の中まで曲づくり結びつけた気がします。

示野 「お龍と龍馬」は、心の底から歌うぜよ!

示野由佳 しめの・ゆか  
オーストリア・パッシン

4月13日(日)14時開演(13時半開場)  
高知県立県民文化ホールオレンジホール  
一般前売り1,000円(当日1,500円)  
小学生以下無料

第1部:オペラリサイタル  
第2部:『お龍と龍馬・愛の讃歌』

4月13日(日)14時開演(13時半開場)  
高知県立県民文化ホールオレンジホール  
一般前売り1,000円(当日1,500円)  
小学生以下無料

第1部:オペラリサイタル  
第2部:『お龍と龍馬・愛の讃歌』

そんな私たちの前に生き生きとしたお龍と龍馬が現れた。オレンジホールに一人の歌声が響いた瞬間、龍馬たちが蘇つた。

二組の恋人たち。幕末とウィーンから吹いてくる風。一人でも多くの方に聴いて、見て、感じていただきたい。

今年初め、朗報が飛び込んだ。「お龍と龍馬」を通じて、ウィーンの王室・ハプスブルク家主宰の平和団体「平和の炎」から、県立坂本龍馬記念館、つまり坂本龍馬に『平和の炎賞』を授与するというニュースである。示野さんたちにも同時授与される。

龍馬を大変誇りに思っています。

お父さんの死。ウィーンと高知の時差。オペラの台本と『お龍と龍馬』との表現のタイミング。夢の中まで曲づくり結びつけた気がします。

示野さんは故郷高知への思いもありでは。

示野 私は土佐女子高校を卒業後、県外の大学に進み、その後は長く海外で過ごしてきました。国内外で様々な人に会い、いろいろな経験をしました。そんな中で近頃深く感じるところは、私の中にある土佐人気質。この気質は私のアイデンティティですし、同じ土佐人としてお姫さまや女中などを演じましたが、お龍さんは故郷の身近な人だと感じます。今までいろんな国の人とは違うイメージになつたが、また、曲も自分たちがふだんいうことでやりやすいですね。曲の良さを少しでも多く出していきたいと思います。

示野 ありがとうございます。脚本も変更に次ぐ変更でしたが、私も苦労を忘れました(笑)。それでも、初めての、外国人龍馬、表する舞台。楽しみです。それにしても素晴らしい歌声。オレンジホールが小さく感じられました。

さて、リハーサルも始まり、いよいよです。

お二人にとっても、記念館にとっても、初めての作品『お龍と龍馬』を発表する舞臺。楽しみです。

示野 ありがとうございます。

私たちにとつても初めての日本語による、しかも私の故郷に通じる作品。また、こうして完成されたひとつの作品を二人で歌うことは初めてです。楽しみな反面、気持ちが引き締ります。ディーターは日本語のみならず土佐弁に四苦八苦しています。私の土佐弁指導も厳しいし(笑)。

示野 そう、私はガイジンです。しかも、「変なガイジン」(笑)。

示野 「お龍と龍馬」はオペラと違う发声や表現があつて、本当に苦労しました。努力型の私と違つてディーターは天才肌なので理解や表現力に優れていますから、いいものにしていきます。

示野 ディーター、私はウィーンに生まれ育ちましたが、日本も土佐も好き。初めて高知に来た11年前。桂浜で龍馬像を見たとき、初めてなのに懐かしい気持ち、親近感を感じました。

示野 龍馬はサムライの時代をなくしただけではなく、自分の利益というものが何を必要としているのかだけを考えた。本当に素晴らしい。

示野 ディーター、私はウイーンに生まれ育ちましたが、日本も土佐も好き。初めて高知に来た11年前。桂浜で龍馬像を見たとき、初めてなのに懐かしい気持ち、親近感を感じました。

示野 龍馬はサムライの時代をなくしただけではなく、自分の利益というものが何を必要としているのかだけを考えた。本当に素晴らしい。

示野 ディーター、私はウイーンに生まれ育ちましたが、日本も土佐も好き。初めて高知に来た11年前。桂浜で龍馬像を見た

## 山内一豊の名馬

京都国立博物館

宮川 槟一

土佐を代表する歴史上の人物は坂本龍馬と山内一豊であろう。どちらも大河ドラマの主人公となつた（龍馬は二度も）。しかし司馬遼太郎の『功名が辻』の本当の主人公は妻の千代（ドラマでは仲間由紀恵が演じた）であつた。隠していた持参金十両で夫のために名馬を買うなどの内助の功が夫を土佐一国の殿様にさせたというストーリーである。

男性にとつてじつに都合のよ

い話だ。



ところが永井路子の『一豊の妻』という短編小説ではこれが正反対の話になつてゐる。ある日のこと貧乏な山内一豊は安土城下の馬市で黄金十両という高価な名馬を買って家に帰つてきた。その話を聞いた妻の千代は激怒して「そんな大金があつたのなら私に着物の十枚も買ってちようどいい。組板も買えないのに」などと一豊を責めたてたのだ。

そこで一豊がいうには「家臣だが、自分が苦心して貯めた十両だ。しかし仕事に必要とはいえる馬を大金で買ったというのでは家来の手前具合悪い。だからこの馬は妻のお前が買つてくれたことにしてあるから」と。その説明に納

得できない千代だが、数日後、家臣たちの様子がおかしいことに気付く。「奥様、城下では大変な評判ですよ。山内氏の奥方は旦那様想いのとても良い奥方だ。貞女の鑑だと」千代はその噂を否定することもできず「まあそれほどのことでもございませんわ。オホホホ」と上機嫌だ。一豊は「してやつたり」と思うと

いう話である。以前、永井路子先生にお会いした際にこの小説のことを「面白いですね」と申し上げると、笑いながら「冗談みたげに話なのよ」というお返事であった。「女性の立場から歴史を見る」というのが永井先生の基本だ。

「仕事に絶対必要だから」とドイツ製高級乗用車を買つたと夫が言いだしたら、奥様はへそくりを出しますか？ 奥さまのご家庭ではいかがであろうか。

## コラム・龍馬のこと

### 「幕末のキリスト教の話」

現代龍馬学会員 鈴木 典子

坂本龍馬の率いる海援隊や、当時の勤王の志士がキリスト教の教えを受けていたことは、歴史家の間ではよく知られている。私の先祖、池道之助の日記にもキリスト教に関する話が記されている。龍馬の活躍していた時代、中浜万次郎と共に長崎に赴いた道之助の日記を訳してみるとよく「サンデーに行く」という言葉が出てくる。チェックを入れてみると、その言葉は七日ごとに記されている。そこからこれはサンデーサービス（日曜礼拝）のことではないかと気が付いた。

私はクリスチヤンですから、この記録を見た時胸が躍った。私の先祖、道之助も礼拝に出かけていたと思うと、手に本を持った袴姿の道之助が、長崎の町を歩いている様子が想像される。「今日フレンチからアメリカの教師になる・・・」などの文面を見ると、それは「宣教師の入れ替えではないのかな、などと考える訳だ。

キリスト教と言えば、迫害の歴史を避けては通れない。こんな記述もある。「浦上ミノとその一族捕えられる。切支丹衆の故なり、實に氣の毒なことなり」。数年前、調査に長崎へ行った。土佐商会の跡地にある展示場で案内役の方から詳しく説明を受けた。三度行われた切支丹狩りの中でその記録が最大で、千名以上の切支丹が捕えられた。彼らは五島列島、熊本、高知、徳島などに送られたと考えられる。彼らは再び故郷に帰ることは許されずその地に根を下ろし、布教活動を続けたのだろう。

後に熊本バンド、高知バンド、徳島バンドなどと呼ばれたようにそこが、キリスト教の盛んな地域であったことを伝えている。

## “話してみるかよ”

### 「まち歩き」の魅力

現代龍馬学会 森本 琢磨

最近、仕事の関係上から高知市の上町（かみまち）の史跡巡りに久々に参加した。上町とは、坂本龍馬が生まれた町であり、かつて郷士や町人らが住んでいた地域である（上士が住む地域は「郭中」と呼ばれる）。残念ながら、同町における当時の建物は空襲等によってほとんど残っていないが、所々に存在する碑や看板が歴史を物語っている。また、当時の姿を留めた場所もいくつか存在しており、郭中と上町を分ける堀の一部や「水通町」の名の由来となる水路がそれである。史跡を巡ると、「龍馬や近藤長次郎がここを通ったであろう」などと想像力を掻き立てられる。

このような「まち歩き」への取り組みは、上町だけでなく、高知県内において様々な形で進められている。高知市に隣接する土佐市では、レトロな雰囲気な中心商店街巡りが好評である。また、その隣の須崎市では先日、ガイドブックに載らないような「日常」的な風景を観光資源とするツアーが人気を集めた。

ここで挙げたまち歩きのコースの中には、有名な巨大建造物もなければ最新鋭のアミューズメント施設もない。しかし、そこには長年多くの人々が暮らし、脈々と紡いできた時間の流れが感じられるのである。100年前に作られたものには、それに携わった100年前の人々のドラマがあり、背景がある。たとえ龍馬のような大人物がかわっていなくとも、そこには確実に人間の歴史があるので。それに触ることのできるまち歩きは、まさに過去との対話、時間旅行とも言えよう。